

左上：「上ハ野の一本杉」（昭和 40 年頃）〔写真提供：上村修一氏〕

右上：現在の「上ハ野の一本杉」〔写真提供：郡上市〕

下：上ハ野の一本杉附近での田植え（昭和 46 年）〔写真提供：上村修一氏〕

中在所の水田地帯の中に、枯れた一本スギがそびえています。このスギは通称「上<sup>う</sup>ハ<sup>わ</sup>野の一本杉」といいます。

圃場整備が行われ、原野が水田に変わり、水の流れも変化したことで、一本杉は枯れました。

一本杉については、「白山で之れをかへり見へ候也」と文献に記されています。かつて白山信仰が盛んで、多くの人たちが白山へ登っていたころ、石徹白から白山へ向かう奥山の方からでも振り返ると一本杉が見えたということです。

昔、この辺りは湖畔で、上ハ野の主として恐れられていた大蛇が棲<sup>す</sup>んでいたそうです。その大蛇が、あるとき、一本杉に体を 7 巻半して、更に約 60m 離れた大石に頭をもたげ昼寝をしていました。それ以来、大蛇が枕にした大石のことを「蛇<sup>へんび</sup>の枕<sup>まくらいし</sup>石」と呼ぶようになったそうです。また、人々はこの一本杉のことを「蛇<sup>じや</sup>のふまえ」といい、農地へ枯葉や枯れ枝を落として邪魔になっても、伐り倒すことができなかったといわれます。大石の上に乗ると雨が降るといふ言い伝えもあります。

現在、「蛇の枕石」は、一本杉の根本近くにありますが。圃場整備の際に、いまの場所へ移されました。